別紙１

令和７年度　　国本中央小学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の教育」を基盤とし，豊かな人間性をもち，意欲をもって主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい児童の育成
☆　心豊かで思いやりのある子ども（やさしく）
☆　自ら学ぶ子ども（かしこく）
☆　明るく元気な子ども（たくましく）

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標達成のため，全職員が自らの使命を自覚し，「人間尊重の教育」を基盤とした誰もが安心して学べる活力ある学校づくりを推進する。

学校教育目標達成のためには，教職員が学校経営の方針を理解し，自らの使命を自覚して，児童のよりよい成長のために日々の教育活動にあたることが重要である。その過程において，保護者・地域住民と適切に連携していくことにより，教育の目的である，児童の望ましい人格が形成されていく。したがって，本校は，教職員の資質の向上により，児童が安心して生き生きと学ぶことができる活力ある学校づくりを推進し，上記の具体目標の達成を目指す。

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。

（１）心の教育の充実による自信や自己有用感，規範意識，思いやりの育成（やさしく）
・不登校対策の充実
・いじめを生まない指導・支援の充実
・宮っ子心の教育の推進（自己肯定感，たくましさ，思いやり，人権を尊重する心）
・自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，生き方についての考えを深める道徳教育の充実
・進んで人と関わり，自ら望ましい人間関係を築いていこうとする態度の育成
・体験活動・読書活動の充実
（２）基礎・基本の確実な習得，活用する力の育成，自ら学ぶ意欲の涵養（かしこく）
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（「宇都宮モデル」の活用）
・教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成（カリキュラム・マネジメントの充実）
・学力調査等を活用した共通実践（ＰＤＣＡサイクルの確立）
〇学びに向かう力と協働して課題解決に取り組む態度の育成
・１人１台端末の効果的な活用（情報活用能力の育成とデジタル・シティズンシップ教育の充実）
・宮・未来キャリア教育の充実
・英語教育・国際理解教育の充実
・学力向上と児童指導を一体的に進める中高学年での教科担任制
（３）生涯にわたり心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力の育成（たくましく）
・元気アップ教育の推進
〇進んで運動に親しみ，体力を高めようとする資質・能力の育成
・健康を管理する能力の育成（感染症予防の意識涵養）
・望ましい食習慣の形成
・危険予測・回避能力の育成
（４）教職員の資質・能力の向上を目指す取組
・OJT の活性化による実効的な校内研修の実施
・学び続ける教職員をめざした学校風土の確立
・信頼される教職員をめざした研修機会の確保
・教職員評価等を生かしたキャリアステージに応じた人材育成
・勤務時間を意識した働き方改革の推進と校内業務の見直し
・教職員個々のウェルビーイングの向上
（５）地域とともにある学校づくりの推進
・地域学校協働活動の充実による児童の健全育成
〇地域教育資源（人・物・場所）を効果的に活用した体験活動による郷土愛を育む学習の推進（「宇都宮学」との関連）
・積極的な情報発信

【国本地域学校園教育ビジョン】
「自ら学び　心豊かで　元気な国本っ子」　～地域とともにある学校をめざして～

４　教育課程編成の方針

（１）「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に示された「基本目標」や「目指す姿」の趣旨を十分に理解し，教育計画作成に当たっては，これらの内容を取り入れ活用を図る。
（２）留意点
・学校教育目標の具現化を図るため，地域と連携しながら教科横断的な視点に立って全教育活動を有機的に関連させるとともに，「深い学び」の実現を目指してカリキュラムマネジメントを進める。また，系統的系統的・発展的な指導と特色ある教育活動を展開できるよう編成する。
・学校マネジメントシステム学校評価書による改善策を生かすとともに，「社会に開かれた教育課程」の観点から，十分に地域等との連携を図れるようにする。

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

（１）学校運営
・児童が夢をもち，安心して，生き生きと学ぶ学校づくり
・教職員がチームとして，指導力を発揮する学校づくり（教職員の資質・能力の向上と働き方改革の推進）
〇 保護者や地域から信頼され，共に歩み続ける学校づくり（地域と共にある学校づくりの推進）
（２）学習指導
〇自他を大切にし，共に学ぶ児童の育成（「仲間と共に　夢を育む　国央小」）
・未来を生き抜くための資質・能力の育成
（３）児童生徒指導
〇学業指導による学びに向かう集団の育成
・学年・学級経営の充実と個に応じた支援の重視
（４）健康（体力・保健・食育・安全）
〇自分の体に関心をもち，進んで健康・体力の向上に努める児童の育成
・教科体育，保健指導の充実と運動の日常化

６　自己評価　A1～A20は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①　発達段階に適した「聞くときの約束」を提示することで，友達の意見を聞き，相手の考えを理解することができるようにする。 ②　自分の言葉で振り返る活動を充実させるため，「ふりかえり」の言葉カードを活用して，より主体的に学習に取り組めるようにする。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童８８．９%であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　基礎基本の定着を重視し，自信をもって学習に取り組めるようにする。 ②　ペア・グループなどの学習形態を工夫し，協働的な学習を進められるようにする。 ③　自分の言葉で振り返る活動を充実させ，より主体的に学習に取り組めるようにする。
１－（２）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	①　学年に応じて，人権の内容に関する知識・技能・態度などを身に付けられるよう全職員で研究を行うとともに，児童に分かりやすいスローガン等で啓発を図るなどして，思いやりやルールを守る心を育てる。 ②　キャリアパスポート等に保護者のコメント欄を設けるなど，学校の取組の発信を行う。 ③　心ぽかぽか運動や人権週間の取組を充実させ，児童同士の互いを尊重し合う心を育む活動を継続していく。	A	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童９０．６%，で目標を上回ったが，保護者の割合は８７．７%であり，目標を下回った。 【次年度の方針】 ①　今後も学年に応じて，人権の内容に関する知識・技能・態度などを身に付けられるよう全職員で研究を行うとともに，児童に分かりやすいスローガン等で啓発を図るなどして，思いやりやルールを守る心を育てる。 ②　各種たよりで活動内容を紹介したり，キャリアパスポート等を保護者にも確認してもらう機会を設けたりするなど，学校の取組の発信を行う。 ③　心ぽかぽか運動や人権週間の取組を充実させ，児童同士の互いを尊重し合う心を育む活動を継続していく。

	Ａ３　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①　キャリアパスポートを活用し，具体的な学期始めの目標を設定し，学期末の振り返りを定期的に行う。 ②　帰りの会や授業等を通して児童同士が互いの良さを認め合える時間を確保し，自己肯定感や自己有用感を高められるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は８８．９％であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　キャリアパスポートを活用して，具体的な自身の目標を考え，学級でもそれを基に目標等を決め，それに対する振り返りを定期的に行う。 ②　帰りの会や授業等を通して児童同士が互いの良さを認め合える時間を確保し，自己肯定感を高められるようにする。
１－（３） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上	①　歯みがきの時間の設定や家庭へのお知らせ・歯みがきカレンダーの配付，歯みがきがんばり週間の設定をとおして，児童や家庭に対して歯科保健への意識の啓発をしていく。 ②　健康診断結果など，保健関係の配付物により家庭への健康意識の啓発を行う。 ③　うがい・手洗いの励行をする。 ④　身だしなみを整えられるように保健だよりや掲示物等を用いて指導をするとともに，委員会で身だしなみのチェックを定期的に行い，意識づけをする。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童９１．６，保護者８６．０％であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　今後も継続して歯みがきの時間の設定や資料・歯みがきカレンダーを配付し，児童や家庭に対して歯みがきの啓発をしていく。 ②　健康診断結果など，保健関係の配付物を速やかに配付し，家庭への健康意識の啓発を行う。 ③　今後も引き続き，うがい・手洗い・の励行をする。 ④　身だしなみを整えられるように保健だよりや掲示物等を用いて指導をするとともに，委員会活動で身だしなみのチェックを定期的に行い，意識付ける。
１－（４） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　児童は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①　日直や当番活動，清掃活動など日常の取組について，振り返りの時間を設けて，自己の成長を実感させる。 ②　学級委員や委員会活動等において，仲間と協力して実践する機会を通し，協力して助け合う喜びや充実感を味わわせ，活動への意欲を喚起する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童８６．１％であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　今後も継続して，当番活動，清掃活動など日常の取組について，振り返りの時間を設けて，自己の成長を実感させる。 ②　学級活動や委員会活動等において，仲間と協力して実践する機会を通し，協力して助け合う喜びや充実感を味わわせ，活動への意欲を喚起する。
２－（１） グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成す教育の推進	Ａ６　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①　外国語科及び外国語活動の時間では，ＡＬＴと協力して児童の興味を高めさせ児童同士のコミュニケーションを図れるような活動を工夫する。 ②　ALT が給食時に各学級を回ったり，昼休みに英語の読み聞かせをしたりなど授業以外でのＡＬＴとのコミュニケーションの場面を設定する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は８２．９％であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　外国語科及び外国語活動の時間では，ＡＬＴと協力して児童の興味を高めさせ児童同士のコミュニケーションを図れるような活動を工夫する。 ②　ＡＬＴが給食時に各学級を回ったり，昼休みに英語の読み聞かせをするなど授業以外でのＡＬＴとのコミュニケーションの場面を設定する。

	Ａ７　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒教職員・児童の肯定的回答80%以上	①　本地域や宇都宮市の良さに関連する学習内容を社会科や総合的な学習の時間で継続的に扱う。その際，地域ボランティアやデジタル教材を活用する。 ②　お昼の校内放送で，宇都宮市の歴史や良さ，魅力について放送していく。また，地元でとれた食材を紹介し，地域との関わりや地域の良さに気付かせる。 ③　宇都宮市に関する資料を集め，図書館に「宇都宮コーナー」を設置し，児童に宇都宮のよさや魅力を知らせる。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は教職員９１．７%，児童は８３．３%で，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　本地域や宇都宮市の良さに関連する学習内容を社会科や総合的な学習の時間で継続的に扱う。その際，地域ボランティアやデジタル教材を活用する。 ②　お昼の校内放送で，宇都宮市の歴史や良さ，魅力について放送していく。また，地元でとれた食材を紹介し，地域との関わりや地域の良さに気付かせる。 ③　宇都宮市に関する資料を集め，図書館に「宇都宮コーナー」を設置し，児童に宇都宮のよさや魅力を知らせる。
２－（２）情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上	①　デジタル機器の効果的な活用の仕方を工夫し，学年や学校で共有する。 ②　今後も学習センターとしての図書館を計画的に活用する。 ③　児童が図書室で学習している様子を図書館だよりやホームページに掲載したり，授業で作成したものを掲示したりして，学校での取組の様子をより積極的に保護者へ発信する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童８５．７%，保護者８１．５%であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　デジタル機器の効果的な活用の仕方を工夫し，学年や学校で共有する。 ②　今後も学習センターとしての図書館を計画的に活用する。 ③　児童が図書室で学習している様子を図書館だよりやホームページに掲載したり，授業で作成したものを掲示したりして，学校での取組の様子をより積極的に保護者へ発信する。
２－（３）持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　児童は，「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 ⇒教職員・児童の肯定的回答80%以上	①　「みどり活動」，「稲作活動」等，「持続可能な社会」と関連のある活動を行う際は，それらの関連とその意味について，児童の発達段階に応じた指導をする時間を設ける。 ②　児童会活動で，「節電・節約週間」などを設けて節電や節水を呼び掛ける活動を行うことで，「持続可能な社会」を意識した行動が取れるようにする。 ③　生活科や総合的な学習の時間を活用し，自然環境に対する意識を高めていく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は教職員８７．５%，児童は８４．３%で目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　「みどり活動」，「稲作活動」等，「持続可能な社会」と関わりを意識させながら活動させる。 ②　児童会活動で，「節電・節水週間」などを設けて節電や節水を呼び掛ける活動を行うことで，「持続可能な社会」を意識した行動が取れるようにする。 ③　生活科や総合的な学習の時間を活用し，自然環境に対する意識を高めていく。

３－（１） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①　特別な支援を必要とする児童の実態を把握し，関係する教職員や保護者と情報共有をして支援の方向性を示す。 ②　児童に応じた指導方法の工夫を行い，特別な支援を必要とする児童にとっても，分かりやすい授業の展開をする。 ③　必要に応じて校内支援委員会を開き，個別の支援計画を作成して，かがやきルームやＳＣ，市教育センター，保護者との連携を図っていくとともに職員会議の時間等に学校全体の教職員間の共通理解を図る場を設ける。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は１００％であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　今後も特別な支援を必要とする児童の実態を把握し，教職員や保護者と情報共有をして支援の方向性を示す。 ②　継続して一人一人の児童に応じた指導方法の工夫を行い，特別な支援を必要とする児童にとっても，分かりやすい授業の展開をする。 ③　必要に応じて校内支援委員会を開き，個別の支援計画を作成して，かがやきルームやＳＣ，市教育センター，保護者との連携を図っていくとともに継続して職員会議の時間に学校全体の教職員間の共通理解を図る場を設ける。
３－（２） いじめ・不登校対策の充実	Ａ11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	①　定期的なアンケート調査や教育相談により，子供の実態把握と，いじめ防止・早期発見に努め，適切な対処をするとともに，いじめ事案発生の際には，チームで対応し，保護者への連絡を密にし，誠意ある対応を心掛ける。 ②　学校だより・学年だよりでアンケート調査やいじめ撲滅への具体的な学校での取組を保護者に知らせる。 ③　道徳の授業公開をする際，いじめ防止を扱った内容を行い，宿題等で家庭でも話し合う機会を設けるなど，保護者へのいじめ防止活動の周知を強化する。 ④　いじめゼロ集会等の機会に，児童のいじめ撲滅の気持ちを高める。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は９４．８％で目標を上回ったが，保護者の肯定的回答は７６．７％で前年度よりも向上したものの，目標を下回った。 【次年度の方針】 ①　今後も定期的なアンケート調査や教育相談するとともに，学級での振り返りの時間を設ける。子供の実態把握と，いじめ防止・早期発見に努め，適切な対処をするとともに，いじめ事案発生の際には，チームで対応し，保護者への連絡をさらに密にし，誠意ある対応を心掛ける。 ②　各種たより等での調査やいじめ撲滅への具体的な学校での取組を保護者に知らせることを継続する。 ③　道徳の授業公開をする際，いじめ防止を扱った内容を行い，宿題等で家庭でも話し合う機会を設けるなど，保護者へのいじめ防止活動の周知をより強化する。 ④　児童や保護者の願いを取り入れた学級目標の作成や，いじめゼロ集会等の機会に，児童のいじめ撲滅の気持ちを高める。

	Ａ12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	①　児童や保護者に，積極的に関わり，配慮が必要な児童や，その保護者には，連絡を密にし，普段からの信頼関係づくりに努める。 ②　養護教諭，ＳＣ，市教育センターと積極的に連携を図り，アドバイス等を指導に生かしていく。欠席累計の状況や遅刻・早退の動きなどを把握し，潜在的な不登校児の早期発見と対応に努める。 ③　校内にて不登校傾向が見られた場合，早急に支援するとともに，全職員が積極的にかかわるなど組織的対応を行う。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童９５．５%，教職員１００%，保護者の肯定的回答は８６．３%，で共に目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　今後も児童や保護者に，積極的に関わり，配慮が必要な児童や，その保護者には，連絡を密にし，普段からの信頼関係づくりに努める。 ②　養護教諭，ＳＣ，市教育センター等とより積極的に連携を図り，アドバイス等を指導に生かしていく。欠席累計の状況や遅刻・早退の動きなどを把握し，潜在的な不登校児の早期発見と対応に努める。 ③　校内にて不登校傾向が見られた場合，早急に支援するとともに，全職員が積極的にかかわるなど組織的対応を行う。
３－（３） 外国人児童生徒等への適応支援の充実 ３－（４） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	Ａ13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①　全職員が全児童に対して称賛するよう心掛け，「日々の記録」を活用する。 ②　日常的に教育相談を行ったり，気になる児童への声掛けを積極的に行う。 ③　認め，励ます指導の技術や有効な方法を教職員間で共有し，実践する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童９４．４%，教職員１００%であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　全職員が全児童に対して称賛するよう心掛け，引き続き「日々の記録」を活用する。 ②　今後も日常的に教育相談を行ったり，気になる児童への声掛けを積極的に行ったりする。 ③　認め，励ます指導の技術や有効な方法を教職員間で共有し，児童が安心して登校できるような学校づくりに努める。
４－（１） 教職員の資質・能力の向上	Ａ14　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	①　宇都宮モデルを実践しつつＩＣＴ機器などの活用を充実させる。 ②　児童の実態を把握し，習熟度別学習やＴ・Ｔ（ティーム・ティーチング），教科担任制，かがやきルームでの学習など多様な指導方法を活用し，個に応じた指導の充実を図る。 ③　職員研修として授業研究を年に数回行い，研鑽を深める。また，各学年の担任が協力して教材研究を進め，授業形態の工夫をしながら，分かる授業の実践に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は９３．７%で目標を上回った。保護者の肯定的回答は７７．８%で，目標を下回った。 【次年度の方針】 ①　宇都宮モデルを確実に実施し，分かりやすい授業展開をさらに実践していく。 ②　児童の実態を把握し，習熟度別学習やＴ・Ｔ（ティーム・ティーチング），かがやきルームでの学習など多様な指導方法を活用し，個に応じた指導の充実を図る。 ③　職員研修として授業研究を年に数回行い，研鑽を深める。また，各学年の担任が協力して教材研究を進め，授業形態の工夫をしながら，分かる授業の実践に努める。

４－（２） チーム力の向上	Ａ15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①　校務分掌に基づいた職員間の連携や，多様なスタッフの専門性を発揮する場の設定などを通して，チーム力の向上を図る。 ②　「報・連・相」を徹底し，計画的・組織的に業務に対応する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は，昨年度に引き続き１００%であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　校務分掌に基づいた職員間の連携や，多様なスタッフの専門性を発揮できるような，やりがいのある場の設定を通して，チーム力の向上を図る。 ②　児童の見守りや行事のボランティア等，地域の方々と連携・協力し，「チームとしての学校」の実現を目指す。
４－（３） 学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①　ワーク・ライフ・バランスの視点から業務内容を見直し，長時間労働を削減するために，自分にできることを意識して業務に取り組めるようにする。 ②　毎月のリフレッシュウィーク・リフレッシュデーを設定し，退勤時刻を意識した働き方や，計画的に業務に取り組むことに努める。 ③　学校行事の精選や，ＩＣＴを活用した打合せなどを推進して，業務の効率化を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は，９５．８%であり，目標を上回った。市の回答を３．９ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ①　ワーク・ライフ・バランスの視点から業務内容を見直し，自分にできることを意識して業務に取り組めるようにする。 ②　リフレッシュウィークの取組を徹底し，退勤時刻を意識した働き方や，計画的に業務に取り組むことに努める。 ③　学校行事の精選や，ＩＣＴを活用した情報共有などを推進して，業務の効率化を図る。
５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ17　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上	①　地域学校園研修会の機会を活用し部会ごとの情報交換を通して，各校が連携・協力して指導にあたる。 ②　地域学校園内の児童生徒の学習面・生活面の課題を共有し，あいさつ運動など共通の具体策を推進する。 ③　ＨＰや学校便りで，「小中一貫・地域学校園」での取組を積極的に発信していく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は，９５．８%，児童の肯定的回答は，９２．０%であり，目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　地域学校園全体研修会の機会を活用し部会ごとの情報交換を通して，各校の連携・協力を一層活性化し指導に当たる。 ②　地域学校園内の児童生徒の課題を共有し，あいさつ運動など共通の具体策を同一歩調で行う。 ③　学校行事と関連する地域学校園の取組について，分かりやすくＨＰや学校だよりで発信していく。
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	Ａ18　学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充	①　各種ボランティアの募集をしたり，ボランティアの活動を，各種便りやＨＰ等で紹介したりして，地域	B	・肯定的回答の割合は，教職員１００%，児童９０．６%，保護者９２．６%，地域住民１００%と全ての対

５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員・児童・保護者・地域の肯定的回 85%以上	の方々が学校の教育活動に広く参画できるようにする。 ②　「夜の生き物観察会」,「宝木用水見学」,「国本まつり」等の地域行事への参加や,「カルビー工場見学」等の企業や関係諸機関と連携した学習を通して,教育活動の充実を図る。		象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　各種ボランティアの募集をしたり，ボランティアの活動を，学校だよりやホームページ等で紹介したりして，地域の方々が継続して学校の教育活動に広く参画できるようにする。 ②　地域協議会と連携し，宝木用水の学習やブルーベリー収穫など，地域の教育力を生かした活動を計画的・継続的に行う。 ③　「国本カルタ大会」,「くにもとまつり」等の地域行事への参加や,「カルビー工場見学」,「ネットトラブル教室」等の企業と協力した学習を通して，児童の社会性を育てる。
６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ19　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	①　職員による月１回校舎内外の安全点検を確実に行い,事故の未然防止に努めていくと共に,異常を発見した際には,迅速に担当者へ連絡を行い，修理等の対応を行っていく。 ②　危機管理マニュアルを整備するとともに,避難訓練や引き渡し訓練等を通して，火事，地震，竜巻，不審者侵入等の不測の事態への備えを整える。 ③　熱中症予防対策,感染症予防対策など,時期に応じた保健指導管理に努める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は，教職員９５．８％，保護者８９．４％，地域１００％と全ての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　職員による月１回校内外の安全点検を確実に行い，事故の未然防止に努め,異常を発見した際には,迅速に担当者への連絡を行い，修理等の対応をしていく。 ②　危機管理マニュアルを整備するとともに，避難訓練や引き渡し訓練の際に，児童への事前指導を徹底し，児童の危機管理への意識を高めるようにする。 ③　学年だよりや保健だより等を活用し,保護者へ発信し,時期に応じた保健指導を行うなど管理に努める。
６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ20　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①　今後も，ＩＣＴ支援員と連携して教材の開発や情報交換をする。 ②　効果的な活用の仕方について，教職員の打合せの時間や掲示板を活用して情報共有する場を設定する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は，１００％で目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　今後も，ＩＣＴ支援員と連携して教材の開発や情報交換をする。 ②　効果的な活用の仕方について，教職員の打合せの時間や掲示板を活用して情報共有する場を設定する。

小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ１　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒教職員・児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上	①　率先してあいさつができるように，児童会を中心としたあいさつ運動を継続して行い，規範意識を高める。家庭・地域への啓発も意図的に行う。 ②　教員の率先垂範により，自然にあいさつをしたり返したりする習慣を身に付けさせる。 ③　あいさつ強化期間を設定し，自分のあいさつへの取組を振り返る機会を設け，意識の啓発を図る。	A	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は教職員９１．７%，児童９０．６%，地域８７．５%で目標を上回ったものの，保護者の割合は７３．３%で目標を下回った。 【次年度の方針】 ①　率先してあいさつができるように，児童会を中心としたあいさつ運動・自主的なあいさつ運動を継続して行い，規範意識を高める。今後も家庭・地域への啓発も意図的に行う。 ②　今後も教員の率先垂範により，自然にあいさつをしたり返したりする習慣を身に付けさせる。 ③　家庭と連携し，あいさつ強化期間を設定し，自分のあいさつへの取組を振り返る機会を設け，意識の啓発を図る。
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ２　児童は，決まりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 ⇒教職員・児童・保護者の肯定的回答 85%以上	①　「学習のきまり」，「生活のきまり」，「月別の重点目標」を基に週の生活目標を設定し，基本的生活習慣や学習習慣の定着を図る。 ②　時間を守って行動できるよう，授業開始時にチャイムを鳴らすとともに，声掛けを実施する。 ③　水道の使い方，廊下の歩き方について，全職員で重点的に指導する。	A	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は教職員９５．８%，児童９３．７%，で目標を上回ったが，保護者７８．３%で，目標を下回った。 【次年度の方針】 ①　「学習のきまり」，「生活のきまり」，「月別の重点目標」を基に実態に応じた月の生活目標を設定し，けじめのある落ち着いた生活習慣や学習習慣の定着を図り，定期的に学級全体で振り返る時間を設ける。 ②　引き続き時間を守って行動できるよう，授業開始時にチャイムを鳴らすとともに，声掛けを実施する。 ③　今後も水道の使い方，廊下の歩き方について，生活当番の巡視の際など，全職員で重点的に指導する。
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ３　学校行事やボランティア活動等，地域の人々や保護者と児童生徒が交流する機会がある。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上	①　稲作活動の中で田植えや稲刈りの方法を地域の方から教わったり，保護者の方の協力を得たりする機会を活用し，多くの方に支えられていることを児童が実感しやすくする。 ②　読み聞かせボランティアや，様々な学年の行事における保護者ボランティアを募り，学校行事に参加を呼び掛けていく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童８１．２%，保護者８９．７%，地域１００%で，共に目標を上回った。 【次年度の方針】 ①　稲作活動の中で田植えや稲刈りの方法を地域の方から教わったり，保護者の方の協力を得たりする機会を活用し，多くの方に支えられていることを児童が実感しやすくする。 ②　学校だよりやホームページで学校行事の様子を積極的に発信していくと共に，ボランティアとして学校行事への参加を呼び掛けていく。また，読み聞かせボランティアや，様々な学年の行事における保護者ボランティアへの参加も呼び掛けていく。また，ボランティアの人数によって活動の持ち方はその都度検討する。

小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ４　児童生徒は。家庭学習（宿題＋自主学習）に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上	①　年度始めに，家庭学習の大切さを「家庭学習のヒント集」を読み上げながら児童に伝えたり，さらに，家庭学習への意欲を高めるための声掛けをしたりする。②学級活動で児童に家庭学習の意義をしっかりと伝えたり，家庭学習の良い例を紹介したりする。 ②　宿題の内容と量を学年主任会等で話し合うことで，教職員が同じ意識をもって宿題を出せるようにする。 ③　保護者には，学級懇談会で話題にしたり，家庭学習をテーマにした「学習指導だより」を発行したりすることで家庭学習への意識を高められるようにする。	A	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童８０．５%で目標を上回ったが，保護者５６．４%であり，目標を下回った。 【次年度の方針】 ①　年度始めに，家庭学習の大切さを「家庭学習のヒント集」を読み上げながら児童に伝えたり，さらに，家庭学習への意欲を高めるための声掛けをしたりする。 ②　年に２回（４月・９月学級懇談後），「家庭学習強化週間」を設け，保護者と協力して家庭学習に取り組む習慣を付けられるようにする。 ③　家庭学習をテーマにした「学習指導だより」を発行したりすることで家庭学習への意識を高められるようにする。
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ５　児童生徒は，自主的に自分の健康には注意をして生活している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上	①　給食では，嫌いな食べ物でも努力して一口でも食べられるように指導に当たる。 ②　生活習慣チェックを用いて，自分の生活の振り返りを行い，改善点を確認する。 ③　食事に関することや運動面，健康面に関することなどを保健だより，食育だより，体育だより等を通して保護者に啓発していく。	A	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は児童８６．５%で目標を上回ったが，保護者５８．７%で，目標を下回った。昨年より１０ポイント以上下回った。 【次年度の方針】 ①　今後も継続して，給食では，嫌いな食べ物でも努力して一口でも食べられるように指導に当たる。 ②　食事に関することや運動面，健康面に関することなどを保健便り，食育便り，体育便りを通して保護者に啓発していく。 ③　生活習慣のチェックを今後も行い，児童自身が自分の生活を振り返る機会を設ける。 ④　「元気っ子チャレンジ」の種目に全校生で参加することで，楽しく取り組み，児童の体力向上を目指す。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

・評価に関する数値指標は，２５項目中１８項目で達成されており，達成率７割以上でおおむね良好な状況である。
・次の３つの質問項目，「Ａ１　主体的な学習」「Ａ１７　小中一貫教育・地域学校園の取組」「Ａ１８　家庭・地域・企業等との連携・協力」に関しては，数値指標を達成すると共に，特定の回答者の肯定的回答が前年度より５ポイント以上上回った項目である。今年度の達成状況を踏まえて，今後も継続した取組を実施していきたい。
・次の５つの質問項目，「Ａ２　思いやりの心」「Ｂ１　時と場に応じたあいさつ」「Ｂ２　きまりやマナー」「Ｂ４　自主的な家庭学習」「Ｂ５　体力向上」に関しては，数値指標を下回るとともに，特定の回答者において，前年度より５ポイント以上下がった。今後，本校の課題として捉え，今後も取組を継続もしくは拡充していく。
・学習指導面において，Ａ１「児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。」の児童の肯定的回答は，８８．９%であった。宇都宮モデルの授業展開を実践したり，学習形態を工夫したりしてきた成果であると思われる。また，Ａ７「児童は，宇都宮の良さを知っている。」の教職員の肯定的回答が９１．７%であった。児童会活動として放送委員の取組や学校図書館司書による図書室前の掲示といった継続的な活動を行った成果だと考えられる。一方で，Ｂ４「児童生徒は、家庭学習（宿題＋自主学習）に取り組んでいる。」の保護者の肯定的回答５８．４%であった。基本的に宿題を毎日児童に出しているが，家庭内では進んで学習に取り組めていないことが分かる。家庭学習に関して，児童の意識を高めることが十分でなかったことが分かった。
・児童指導面では，Ａ１１「教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。」Ｂ１「児童は，時と場に応じたあいさつをしている。」，Ｂ２「児童は，決まりやマナーを守って，生活をしている。」においては，いずれも児童の肯定割合に比べ，保護者の肯定的割合が低かった。特に，「あいさつ」については，地域住民の肯定的割合も低かった。
・健康体力面においては，Ｂ５「児童生徒は，自主的に自分の健康には注意をして生活している。」の保護者の肯定的回答が５８.７%で，昨年度よりも１０ポイント以上下回った。各種お便り等で啓発も行っているが，結果に結びついていな

い現状がある。
・学校運営面では，Ａ１５「学校に関わる職員全体がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。」Ａ１６「勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる」については，それぞれ，教職員の肯定的回答率が，１００％，９５．８％で市に比べて高くなっている。教職員がチームとして協力し，業務効率化に当たった結果だと思われる。また，Ａ１８「学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。」において，保護者の肯定的割合が昨年度を上回った。特色ある学校行事が充実しており，それに関わるＰＴＡや地域協議会の大きな協力があっての結果だと思われる。

7　学校関係者評価

・数値目標に指標について概ね良好と思われる。次年度も方針に沿って学校経営をお願いしたい。
・教職員の細やかな関わりや日々の努力がプラスの結果を生んでいる。その努力について敬意を表すると共に今後とも児童の成長へのサポートに尽力してほしい。
・昨年度より下がった項目については、児童を交えて話し合うのもよいのではないか。また，結果について，保護者と教職員で話し合う場があってもよいのではないか。保護者のポイントが市より低い点については，家庭でやるべきこともあるのでＰＴＡと連携して改善を図ってほしい。
・Ｂ１「あいさつ」Ｂ２「決まりやマナー」については，基本的なことであり，家庭での日頃の声掛けも大切である。地域でも挨拶を率先して行いたい。同時に教職員も見本となって率先して挨拶をしてほしい。全校での挨拶運動の取組は，自分事として捉えることができ，よい挨拶が広がると思うので進めてほしい。
・いじめ対策については，表に見えない部分も多いと思われるので，さらにきめ細やかな目配りをお願いしたい。
・体力面・健康面においての数値が低いことが気になるので食育の取組を行ってほしい。
・田植え・稲刈りの行事があるが，稲作はその作業だけではないので，ただのイベントとするのではなく，雑草取りなど大変な作業も体験させることも大切ではないか。それによって食料への敬いができる。
・アンケートにおいて，児童・保護者と教職員の数値に差があるものがある。これらについてどのような対策が必要か地域を含めて考えることが大切である。
・報道で目にする教職員の盗撮事件，ＳＮＳ拡散を含めた子供の暴力事件について懸念している。また，子供の自殺の増加等の報道もあるが，子供たちの心の闇を開くのはやはり保護者にしかできないと思われる。保護者への専門家による研修なども必要ではないか。また，日本も戦後８０年を超え，戦争体験者の数も激減している。子供たちには，戦争体験者の講話や映像視聴など，更なる平和教育の必要性を感じる。
・児童，教職員，地域が一体となって取り組む「花の咲くきれいな地域づくり活動」は，児童が植えた花を公共施設，福祉施設へ届けるプロセスが豊かな心を育むと共に地域との交流の輪を広げており，「魅力ある学校づくり」に繋がるものとなっている。

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】
・学校運営に関わる項目については，全て数値指標を上回っているので，引き続き，教職員がチームとなり，業務改善に当たり，やりがいをもって働けるよう，職場環境をよりよくしていく。
・本校の特色である地域・ＰＴＡと協力して行われている様々な行事について，反省点を生かし改善しながら今後も計画的・継続的に行っていく。
【学習指導】
・学習指導に関わる項目では，概ね数値指標を達成している。学力向上を図るために，「分かる授業」「きめ細かな指導」を継続していき，次年度は，教職員が互いに授業を見せ合う機会を増やすことで授業改善を行っていく。
・家庭学習に関して，保護者の肯定的回答割合が低い状況であることから，次年度は「家庭学習強化週間」を設けることで児童が家庭学習に自ら取り組めるように促すとともに，保護者にも引き続き協力していただきながら家庭学習の習慣化を図っていく。
【児童・生徒指導】
・いじめへの指導については，未然防止の観点から，いじめの芽を確実に摘み取れるよう，全職員が共通理解のもと，日常的に児童の様子を細やかに見守っていく。また，保護者との情報共有を行えるよう，懇談会やさくら連絡網等を活用して家庭との連携を図っていきたい。
・挨拶については，高学年主体の挨拶運動を定期的に推進すると共に，委員会主体で行っている取組を全学年へ広げていく。併せて，家庭・地域を巻き込む形で挨拶を広げるために，ＰＴＡや地域協議会と連携した挨拶運動を計画的に展開しておくことが考えられる。
【健康・体力】
・Ｂ５「児童生徒は，自主的に自分の健康には注意をして生活している」について，保護者の肯定的回答の割合を見ると，昨年度よりも１０ポイント以上下回る結果となった。委員会を中心とした特別活動の拡充や体育的行事の在り方を今後も工夫して行っていきたい。特に運動面からのアプローチが少なかったので，全校生で取り組める「元気っ子チャレンジ」の種目に参加することで，楽しく児童の体力向上を目指していきたい。